

●徳島大学 医科学教育部医学専攻

「医療系クラスターによる組織的大学院教育」の事例 <医療系>

具体的に何を実施し、何が困難であったのか

各教育クラスター単位でクラスターミニリトリート（1泊2日の研究交流合宿）を開催し、大学院生同士の交流の場を持つことで、研究交流を促した。一方、日常的な研究活動における相互交流の活性化には課題が残った。

苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

所属大学院組織が異なる大学院生が、日常的に交流できる場が少ないため、リトリート以外での研究交流の活性化に課題が残った。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

ミニリトリートをきっかけとして10件の共同研究が新たに開始された。この共同研究のその後の進捗状況について、発表会を設けたり、研究費助成を行えば、共同研究の促進につながったと考えられる。

●徳島大学 医科学教育部医学専攻

「医療系クラスターによる組織的大学院教育」の事例 <医療系>

具体的に何を実施し、何が困難であったのか

教育クラスターに所属した大学院生を対象に、発表論文、国内学会発表、国際学会発表、受賞・奨学金、獲得した研究費、特許取得、報道、著書、卒業後の勤務先とそのポジションについて調査し、教育効果・成果について検証した。本事業実施前のこれらの状況が把握できないため、本事業の開始前と比較して、本事業によりどの程度の効果が得られたのかを正確に把握することが困難であった。

苦勞したこと、困難であったことの詳細な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

大学院生に関する研究活動のデータベースがないため、その情報の収集作業に苦勞した。また、本事業実施前と実施後の正確な比較ができないため、本事業の成果を研究業績によって定量的に検証することが困難であった。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

大学院生が関与した研究業績については、指導教員を対象としてアンケート調査方式で実施したが、本事業実施による成果を正確かつ定量的に把握できるようにするためには、経年的なデータベース構築が必要である。

●徳島大学 医科学教育部医学専攻

「医療系クラスターによる組織的大学院教育」の事例 <医療系>

具体的に何を実施し、何が困難であったのか

大学院共通科目については、撮影・編集し、e-learning として配信した。クラスターコアセミナーについては、e-learning 化することができなかった。

苦労したこと、困難であったことの詳細な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

e-learning 化するための撮影・編集に要する人員が不足していたため、大学院講義をすべて e-learning 化することができていない。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

e-learning 化システムを改良することで、撮影・編集・配信に要する所要時間の短縮をはかる、e-learning 作業を担当する事務職員を強化する等が今後必要である。これによって、他のクラスターのコアセミナーを受講したかった等の大学院生からの意見に応えることができると考えられる。